グラウンドワーク三島
ボランタリーニュース
Ｎｏ.81　2023 年（令和５年９月 30 日発行）

発行　特定非営利活動法人グラウンドワーク三島
〒411-0857　静岡県三島市芝本町６－２
TEL 055(983)0136　FAX 055(973)0022
URL http://www.gwmishima.jp/
E-mail：info@gwmishima.jp

グラウンドワークとは・・・・・・・
市民・企業・行政がパートナーシップをとりながら、地域の環境改善などを行う活動です。あなたも、ぜひ活動にご参加ください。
（文中でグラウンドワークをGWと表記することがあります。）

令和５年度通常総会・まちづくり講演会・交流会開催

6 月 17 日 13：30、三島商工会議所１階のＴＭＯホールにて、令和 5 年度の総会を開催。来賓のご祝辞や祝電の披露の後、小松幸子ＧＷ三島理事長が議長を務め、渡辺豊博専務理事が映像で説明。議題の第１号議案「令和４年度事業報告及び活動計算書承認の件」、第２号議案「令和５年度事業計画及び活動予算書決定の件」、第３号議案「その他」は、全て承認された。（司会進行：美和将弘）

14：40 からは、「まちづくり講演会」。基調講演は、緒明春雄緒明合資会社社長の「緒明家の事業と楽寿園」。話題提供Ｉは、小野徹 21 世紀塾塾長の「世界各地のまちを旅して思う三島の魅力とは何か」、話題提供Ⅱは、石岡博実ネパール・日本友好協会会長の「ボランティアを通して人に寄り添うこと～災害時における私たちの役割～」で、いずれも多くの映像を準備し丁寧で貴重なお話。聴衆を魅了し、質問も数多く出て、関心の深さが伝わった。

総会も「まちづくり講演会」もオンライン参加が出来るようにし、広く「三島の魅力と水と緑を活かしたまちづくりに挑戦」を発信。

緒明春雄さん

小野徹さん

石岡博実さん

その後「グラウンドワーク三島が目指す三島の未来図とは」のタイトルで、講師３名に小松幸子ＧＷ三島理事長も加わり、司会・渡辺豊博専務理事による自由討論が行われた。石岡博実さんの娘さん・金子真由美さんも若者からの意見を堂々と述べ、会場からは大きな拍手が起こった。

18：00 からは交流会。ＧＷ三島のキャッチコピーの１つ「右手にスコップ、左手に缶ビール」よろしく、話が弾んだ。町内会から初めて参加したという柳詰敬二さんは、娘さんが高校時代にＧＷ三島主催の『2002 全国グラウンドワークサミット』の学生の分科会で話題提供したと報告書を持参され、すぐに打ち解けていた。

交流会風景

総会で確認されたことは次のとおり。令和４年度は、本会が設立 30 年目となる節目の年で「設立 30 周年記念事業」として、「未来の三島」藤岡弘、と語る・水を活かしたまちづくりや、松毛川千年の森づくり・水と緑を守るシンポジウム、水辺の魅力アップ・全国川づくり協働サミットの開催、大場里山メダカ池水辺公園・山の神様石祠の整備等多様な活動に取り組んだ。活動の顕彰として「手づくり郷土賞とベストプレゼン賞」「社会貢献者表彰」を受賞することができた。

令和５年度の事業実施方針は、「せせらぎの街・三島でグラウンドワーク三島の現場学を学ぶ実践教育プログラムを提供」で、主要事業としては、本会が 30 年以上にわたり蓄積してきた、現場再生・環境再生の実践的ノウハウを「グラウンドワーク三島・現場学」として、体系化・学術化・マニュアル化することにより、大学・高校・企業・コンサルタント・行政・専門家などに対して「体験型教育プログラム」を提供する、国際的な「実践教育拠点づくり」に取り組む予定。

「安倍昭恵さんＧＷ三島訪問」の記事 社会貢献支援財団のＨＰに掲載

６月３日～４日、公益財団法人社会貢献財団の会長を務めていらっしゃる安倍昭恵さんや西村明宏環境大臣、日本財団の尾形武寿理事長が三島を訪れ、ＧＷ三島の活動実践地を視察。その際の様子が社会貢献支援財団のＨＰに掲載された。

アフリカ南部のボツワナから視察来訪

松毛川千年の森づくりワンデイチャレンジ

松毛川は、岸に貴重な河畔林が広がっている。ＧＷ三島では、2003 年より、2.4 ㎞にわたる竹林の伐採やチップ化、苗木 8,000 本の植林、産業廃棄物やゴミの清掃、環境調査、自然観察会、三島市側の土地約 3,000 ㎡の買収など、「松毛川千年の森づくり」に取り組んできた。その活動は、2022 年度国交省主催「手づくり郷土賞・ベストプレゼン賞」に選ばれ、2023 年度日本郵便年賀寄付金助成事業として認定された。

６月　４日　松毛川左岸の放置竹林の伐採、チップ化作業
６月 24 日　松毛川左岸の放置竹林のチップ化と運搬、下流部の草刈り作業
７月 14 日　松毛川右岸「三島桜の里」植林地」の下草刈り
７月 22 日　松毛川沿いに置いてあった放置竹林のチップ化と、草刈り作業
８月 23 日　松毛川左岸の放置竹林のチップ化と草刈り作業

「松毛川・森のインストラクター養成講座」の受講生募集
９月 30 日～12 月 16 日開講、全 10 回（学習６回、現地４回）

日本大学理工学部の 菅原遼教授のゼミ生・視察

８月 12 日、日本大学理工学部海洋建築工学科、海洋建築・建築デザイン研究室・菅原遼教授ゼミの学生がＧＷ三島を来訪。

「三島梅花藻の里」での清掃活動を体験し、緑陰で渡辺豊博専務理事の野外講義を受けた。活発な意見交換がなされた。

９月９日、ボツワナの国家公務員（環境・自然資源保全・観光省、森林・草原資源局）と住民メンバー（エコツーリズムを実施しているコミュニティ組織）が、プニュカ・ホフェタマセントラル県支局長を団長に来訪。

小松幸子理事長が実践地の案内説明（撮影同行：美和将弘）をした。源兵衛川では流れる湧水のきれいさに感激し、川に浸った一行は楽しそうで、なかなか上がらなかった。ＧＷ三島事務所では、渡辺豊博専務理事がＧＷ三島について講義をした。団長は、「市民や行政、企業とのパートナーシップを形成する大切さを学んだので、政策に活かしていきたい」と語った。

ベトナムで開催の「日本都市計画学会・国際シンポジウム」にて、ＧＷ三島の成果を発表

８月 17～19 日、ベトナムのダナンで開催された「日本都市計画学会・国際シンポジウム」に、渡辺豊博ＧＷ専務理事は、長野大学・松下重雄教授（ＧＷ三島理事）と参加。

「日本におけるパートナーシップ型まちづくりの成果に関する考察～ＧＷ三島の 30 年間の取り組みを事例として～」を、世界各国から集まった約 400 人の専門家に解説し、好評を得た。

ふるさと三島人物伝 41

創意工夫で　私は脱サラで成功　（その1）

（株）マルヨ　お食事処「松韻」　2社の代表取締役

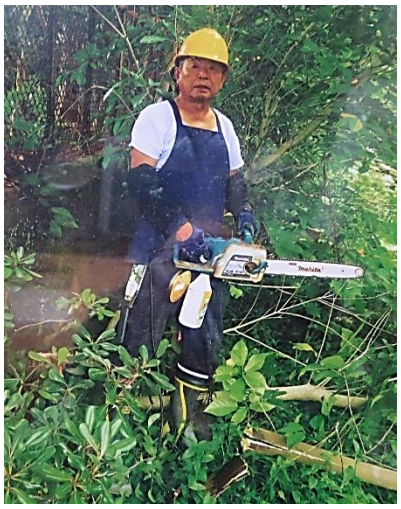
伊丹（いたみ） 秀之（ひでゆき）さん【寄稿】　函南町在住

太平洋戦争が始まった翌年・昭和17年に、7番目の子として生まれた。同年父が他界したので、父の顔は写真でしか知らない。戦争が激しくなり、日本中が苦難に喘いだ時期なので、母は、戦争、農業、そして7人の子育てに多忙で、子供それぞれに構っている時間はなかった。それで私は良い意味での放任主義で育てられたと思う。経済的に困っているだろうという母親への思いから、小遣い稼ぎは普通の出来事だった。小さい頃から、自分の体は自分で守るという自立心が育っていたと思う。

学校を卒業し、社会人の一歩を踏み出した。1ヶ月間熱海のホテルマンとして働き、久しぶりに実家に帰ったところ、母親は開口一番「秀之はたった1ヶ月でこんなになっちゃった」と悲しそうに一言。その言葉は衝撃的だった。その夜はいつまでも「こんなになっちゃった」という母親の言葉を胸の中で独り呟いていた。自分の生き方を変えないといけないと決心し、ホテル勤務を辞め、身を引き締める気持ちで三島信用金庫に就職。しかし、幼い頃から培われてきた私の自立心の虫は、三島信用金庫が休みの日曜・祝祭日に、独自活動の展開を始めた。

最初に手掛けたのが、落花生の半自動販売機を30台購入し、食堂や喫茶店に置かせて頂く商売。当時の給与は月1万円程度。しかしこの落花生の商売は月に4万円の月掛け貯金が出来た。目標にしていた150万円の積み立てが出来た時、藤代町団地に63坪の土地と23坪の家を新築し、新妻を迎えた。この時私は25歳。やがて子供が出来たことで私の事業欲は急速に膨らんだ。28歳で10年間お世話になった三島信用金庫を退職。当時、まだあまり知られていなかった餃子製造卸業の操業を計画していた。先ず、冷蔵庫、フードカッター、焼台、盛り付け台等々の支度が必要だが、家の取得や結婚式で金を使い果たし、資本金が4万円しか手元になく、まさに「どうする秀之君」だった。

新町川に落ちていた古材、大家の倉庫にあったトタン板、三島信用金庫湯ヶ島支店勤務の時の小柳製材様から無料で頂いた柱20本等々を使い、自己流大工で、ようやく8坪のバラック工場が完成。保健所の営業許可も取り付けた。出来上がった工場の屋根の上で、最後のトタン釘を打ち、沼津に沈む夕日を見ながら、感動し涙が溢れてきた。かくして餃子製造卸業がスタート。全く知らない業種を開始したので最悪の事態も想定したが、一旦スタートしたからには、もう後には絶対引けないという意地が強かったようだ。



なり振り構わすに働いた。餃子製造は、珍しさも手伝って上昇機運に乗り始めた。この頃は、入浴の回数を減らし、食事をしながら寝てしまうことも度々。いかに頑張るとはいえ、肉体には限度がある。もう少し仕事が合理的、能率的にならないものかと考えた時、あるヒントを得た。歯医者で働いていた姉の、石膏で作った嚙合器具が餃子の握りに似ていると感じ、半自動餃子製造機の開発に取り組んだ。浜松の梅林機械様と何回か失敗を重ねるも、どうやら完成し、1号機は無料で頂いた。これは、その後の大量生産販売への第一歩の記念すべき出来事だった。

次は、餃子を焼くプライパンの開発。鉄板で作った餃子は焼き目が黒くなるが、キツネ色にならぬものかと考えた時、小学生の頃に見た黄金饅頭の焼台が銅板作りだったのを思い出した。太陽溶接様に相談し、銅板の焼台を完成させた。さらに、焼き餃子の旨さは、瞬時に強い熱を加えて野菜の風味を逃さないことが大事なコツ。それで鍋蓋は軽いアルミ板を加工して開発。美味しい餃子の出来上がりとなった。

次は営業。沼津の魚市場にターゲットを絞り、内野商店様に日参し、ついに品物を置いてもらえることになった。沼津港での登竜門だったと言えるが、ここでの売り込み合戦は、売り上げに影響する置き場の広さや位置の関係で、とにかく朝一番のりに努力した。やがて、御殿場から来ていたソフト餃子の社長様が「私は、伊丹様に負けたようだ。僕の取引先を紹介するから貴方はもっと大きくなってくれ。日本一だよ」と言って、1週間も一緒に引き継ぎをしてくださった。

お孫さんと一緒の伊丹ご夫妻。現在はお孫さんが5人に。

人間は一生懸命になれば怖いものがなくなるということを学んだ。人と人の出逢いは、人生に何回かあるものだと知らされた。ライバル会社の社長様が応援者になるなんて、考えもしない事柄だった。

みしま 歴史旅　その44

名号碑に込められた念仏信仰普及への思い

唯念上人（ゆいねんしょうにん）

三島広小路駅近くにある林光寺や蓮馨寺の山門傍に、大きな石碑が建っている。そこには独特の書体で「南無阿弥陀仏」の6文字が刻まれている。それは名号碑といわれ、唯念上人が、お念仏信仰普及のため各地に「念仏講」を組織し、信仰の目標として建てられたものである。現在、三島市で確認されている名号碑は14基ある。

唯念上人は、寛政3（1791）年1月、肥後の国（現熊本県）八代の藩士滝澤家に生まれた。淳朴剛気、幼少時から「三宝」（仏教教理）を信じていた。14歳の時、江戸に出て酒屋に奉公、17歳で下総の国（現千葉県）行徳の浄土宗徳願寺の弁瑞上人に弟子入り受戒した。19歳の時、弁瑞上人に随って胆振の国（現北海道）有珠邑大臼山（有珠山）善光寺に赴いた。大臼山の噴火に遭遇、地震鎮静後、大臼山に登り別時念仏を修めた。この頃から弁瑞上人に隠遁籠山の志を語り、弁瑞上人が武州岩槻（現埼玉県）の浄土宗浄国寺へ転進されたのを機に、雲水になった。以来、奥州（現青森県）の恐山、羽前（現山形県）の羽黒山、武州八王子（現東京都）の高尾山など諸国を遍歴し、修行を続けた。文政3（1820）年、31歳の時、東京神田山幡随院の方誉順良（順了）上人より「三脈」を相伝された。39歳の時、富士山に登り、義賢行者（念仏三昧発得の僧）に出会い、参籠して念仏に励んだ。

沢地の唯念名号碑

この年、甲州（現山梨県）で修業中に出会った年老いた比丘尼から「これより東の方に有縁の地あり、そこに至りて念仏すべし」と告げられた。有縁の地を探し求め（現駿東郡小山町上野地区）佐野川上流の奥の沢を見つけ、その谷に留まり修行に励んだ。天保元（1830）年40歳の時には、500日の修行を修めた。それは、昼間は岩に座し念仏を称え、夜は横にならず壁に寄り掛かったまま目を閉じ、蕎麦粉を水で溶いたものを常食とする厳しい修行だった。念仏のためには身命を惜しまず、人々の凶難を救って尊ばれた。その後、上人を慕う村人や信者により奥の沢に念仏堂が発願され、天保6（1835）年建立された。明治7（1874）年、教部省より「滝沢寺」（のちの唯念寺）の号を賜り、開祖となった。

上人は、木食で1日1食を常態とし、衣服は烈寒の時も単重1枚、素足に草鞋といういでたち、健脚で、90歳近くなっても若い者を凌ぐほどだったようだ。明治13（1880）年8月大往生。墓碑には「一蓮社向誉専阿称名」と刻まれている。

上人は、厳しい修行を続ける一方、江戸末期～明治初期に各地を巡って念仏信仰の普及に努めた。その範囲は広く伊豆、駿河、甲斐、相模にまで及んだ。各地に念仏講を組織し「南無阿弥陀仏」6文字の名号を書き与え、名号碑の建立を奨めた。その数は多く、現在判明しているのは169基。いずれも高さ1～2mもある大型の石碑である。なかでも、足柄峠の麓の栗ノ木沢（小山町竹之下）に建てられた名号碑は、高さ3.8m幅1.5mで最大。1文字の大きさも90㎝四方あり、名号の書の中では最大である。

林光寺の唯念名号碑

参考資料：法然上人八百年大遠忌記念　『お念仏のともしび』　浄土宗静岡教区布教師会
唯念上人と唯念寺　―足柄峠の麓に巨大な名号碑―　　齋藤泰雄　著
1 三島市広報　第176号　　村人達の信仰　～唯念上人名号碑と念仏講～

Smile スマイル

沢地グローバルガーデンとグラウンドワーク三島

グローバル文化交流協会元会長

【寄稿】　佐藤（さとう） 照子（てるこ）さん

グローバル文化交流協会（略称：ＧＩＡ）は編集や語学などでの文化交流が主な活動でしたが、ＧＩＡ事務局会議で小松幸子さんから「沢地の休耕畑を借りているので、ＧＩＡのガーデンづくりをしませんか」と提案があり、初めての挑戦に一同楽しみでワクワクしました。これが「沢地グローバルガーデン」のスタートでした。

当時は沢地行きのバスもかなりあり、龍澤寺山門の停留所で下車すると、すぐガーデン。花や低木樹を少しずつ植え、会員相互の繋がりも広がりました。龍澤寺近くの胸負坂の桜が満開の頃、外国の方々も交えて昼食を準備し、ガーデンで楽しんだこともありました。

これ以前に、ＧＩＡでは『バイリンガル環境かるた』を発行しており、それが縁で当初よりＧＷ三島の参加団体の１つになりました。ガーデンの入口にアーチ形のゲートが出来、ＧＷ三島によって看板も設置していただき嬉しく思いました。毎年、ＧＩＡの総会には、ガーデンの花々を小松さんが朝摘みし、生けてくれます。

今では四季折々の草花が咲く、立派な憩いの場となっています。これはガーデンを続けてお世話している小松さんの努力と、ガーデン作業に参加してくださる外国や地域の方、ＧＩＡ会員と事務局メンバー、ＧＷ三島の関係者等のおかげです。

長く続けるには資金集めも大事です。みしまプラザホテルさんのご協力のもと、チャリティーコンサートが何度か開催され、ＧＩＡも協力してきました。

沢地グローバルガーデンから眺める青空は何処までも青く、野鳥の声が響き、季節の花々とともに心を癒してくれます。参集された方々は、楽しい会話がはずみ、まさに「出会いのガーデン」を満喫しています。

多様なパートナーシップで成長し続けるまちづくり

ＧＷ三島評議員

府中市市民活動センタープラッツ館長

【寄稿】　林（はやし） 丈雄（たけお）さん

以前は美しい水と緑のまち・三島で生活しながら昼夜の活動に励み、貴重な運営経験を積ませて頂きました。現在は評議員を拝命し、三島の皆さんには学生時代から本当にお世話になっています。

私は鹿児島の大自然で生まれ育ち、人と自然が関わり合って築かれていく「まちづくり」に関心があったので、府中市の東京農工大学へ進学しました。1年時から千賀裕太郎先生の研究室へ入りびたり、全国の「まちづくり」の現場へ調査やボランティア参加すると共に、英国でスタートしたグラウンドワークＵＫの先進性を学びました。その仕組みをいち早く日本へ導入し、地域のパートナーシップで市民主体の環境改善活動や、複雑な社会課題の解決に挑戦し続けているＧＷ三島の存在を知り、何度も自転車で通い始めました。

さらに、ジャンボさんや故・速水さんはじめ農工大の先輩の存在が大きかったです。農業土木の専門知で環境保全を推進するプロセスと、「左手に缶ビール」の意義を手厳しく指導してもらった結果、「地酒とまちづくり」を研究テーマに博士（農学）も取得できました。

ＧＷ三島は市民・企業・行政による多様なパートナーシップをコーディネートし、地域の総合力で「持続可能なまちづくり」を実証してきました。「現場」と「理論」の両輪で蓄積されてきたノウハウやネットワークはとてつもない価値で、私自身もその経験をもとに府中の「協働によるまちづくり拠点」を運営しています。一度構築されたパートナーシップは有機的に結び付き、コロナ禍でコミュニティが分断された時さえも困難を共に乗り越え、新たなまちの成長につながっていることを実感しています。

ここ数年は都留文科大学の担当講義で学生達と三島を訪れ、源兵衛川や松毛川の環境保全活動で汗をかいています。これからの「まちづくりの現場」からパートナーシップの可能性を学び、社会で大いに活かしてもらいたいです。

パッションNo. 47　「ローカルのことを知らないでグローバルなことを語ることはできない」

私は、開発途上国の環境問題を解決するための国際協力事業に 26 年間従事していました。そして、2022 年の 4 月から大学の教員をしています。国際協力の実務を教育体系として若い世代に伝え、若い、世代の育成に貢献したいと思い転職をしました。

国際協力を行うには、「まず日本の事を知る」ことが重要です。今の若い世代には、外国に目を向けて欲しい、外国にどんどん飛び出して欲しいのですが、同時に大切なことは「日本の事をもっと知って欲しい」ということだと考えています。

「水の都・三島」。今では当たり前のように言われますが、三島市内を流れる源兵衛川は、かつて汚染、水の枯渇などの問題がありました。このような状況の中、グラウンドワーク三島が市民・企業・政府の協働作業を通じ環境・地域・人の再生に取り組んできました。人の心を変える意識革命や人間同士の信頼関係の作り方、こういった「実学」がグラウンドワーク三島にはあります。このような「実学」は小さな課題の解決、小さなことの積み重ねであったりします。持続可能な開発目標などが世間では大きく言われていますが、小さな課題も解決できないのに、街全体を変えるとか、日本の社会システムを変革するとか、国際協力などという大きなことはできないはずです。ここ三島から世界を見る、ここ三島と世界はつながっている、ということを若い世代には認識してもらって具体的な行動を起こして欲しいと思っています。国際協力の実務につながる実践の現場がここ三島にあること、地域の課題解決の体験は、広域型や国際的な活動に発展できること、大学のキャンパスでは頭を使い、学外の現場では体と心を使い、動き、いろいろな人と交流することが人として大きく成長すること、こんなことをグラウンドワーク三島の活動は教えてくれています。

―5― 日本大学　国際関係学部　国際総合政策学　鈴木和信

ＧＷ三島の活動記録 2023年6月1日－2023年9月30日

月	日	曜	事　業　名	内　容	場　所	人数
6	4	日	松毛川千年の森づくり	下草刈り	松毛川	11
	10	土	ゆめみしま田植え体験	田植え	三島市梅名地区水田	12
	17	土	令和５年度通常総会	通常総会	ＴＭＯホール	30
				まちづくり講演会		50
				交流会		20
	24	土	松毛川千年の森づくり	竹のチップ化、下草刈り	松毛川	18
7	14	水	松毛川千年の森づくり	三島桜の里・植林地の下草刈り	松毛川	5
	15	土	大場里山・メダカ池環境再生ワンデイチャレンジ	メダカ池周辺の草刈り、水路整備等	三島市大場里山	7
	22	土	松毛川千年の森づくり	竹のチップ化、下草刈り	松毛川	20
8	7	月	源兵衛川カワニナお引越大作戦	カワニナの採捕と放流	源兵衛川	45
	23	火	松毛川千年の森づくり	竹のチップ化、下草刈り	松毛川	6
	26	土	ＳＤＧｓ体験塾	青木ヶ原樹海と洞窟探検（バスツアー）	山梨県青木ヶ原樹海	18
9	2	土	ＳＤＧｓ体験塾	富士山の光と影を学ぶ	三島市民文化会館	12
	6	水	三島梅花藻の里・緑と水の杜ワンデイチャレンジ	三島梅花藻の里・緑と水の杜の草刈りなどの手入れ作業	三島梅花藻の里・緑と水の杜	5
	13	水	松毛川千年の森づくり	竹のチップ化、下草刈り	松毛川	40
	14	木	源兵衛川環境再生ワンデイチャレンジ	外来植物の除去、ゴミ拾いなど	源兵衛川	40
	16	土	三島そば種まき体験	三島そばの種まき	箱根西麓・川原ケ谷	7
	23	土	ＳＤＧｓ体験塾	富士山噴火口の秘密　宝永火口・西臼塚周遊	富士山宝永火口等	24
		土	農業ボランティア体験	ほ場の草取り	元山中ほ場	35
	24	日	源兵衛川環境再生ワンデイチャレンジ	外来植物の草刈り、ゴミ拾い	源兵衛川	40
	28	水	腰切不動尊例祭	御堂の清掃・読経	腰切不動尊	6
	30	土	松毛川・森のインストラクター養成講座	松毛川の自然価値と森づくりについて	ＧＷ三島事務局	8

〈現場で学ぶＳＤＧｓ体験塾〉8/26 18名、9/2 12名、9/23 24名
〈源兵衛川環境出前講座〉
〈定例作業〉★三島梅花藻の里 18回　★源兵衛川 4回　★鏡池ミニ公園 4回　★桜川 4回
★境川・清住緑地愛護会 4回　★雷井戸 4回　★沢地グローバルガーデン 4回
〈定例会議〉★編集会議 6回
〈募金活動〉★東日本大震災、ネパール地震、熊本地震、大阪北部地震、松毛川の森を守る募金
西日本豪雨災害支援募金　随時
〈署名活動〉★三島駅南口「水の都・三島」を財政破綻と魅力破壊から守る署名活動　随時

視察来訪者記録 R5.6.1～R5.9.30

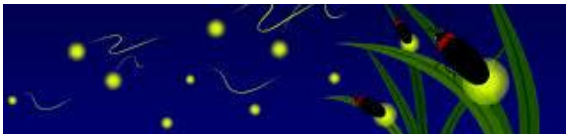
月	日	視察団体	数	地域
6	5	安倍昭恵さんら	9	東京都
	15	台湾国立中山大学	32	台湾
	28	台湾社区大学	2	台湾
7	6	守山市	12	滋賀県
	7	横浜桐蔭大学	18	神奈川
	10	早稲田大学	7	東京都
	16	千葉大学	15	千葉県
	22	トリノ工科大学	5	イタリア
	31	～8/1 東京大学	5	東京都
8	12	日本大学	13	東京都
	29	飯田市公民館館長会	17	長野県
9	9	ボツワナＣＰ	8	ボツワナ
	13	～14　都留文科大学	34	山梨県
	23	～24　青山学院大学	33	東京都
	28	プラチナ構想スクール	17	東京都

静岡朝日テレビ「とびっきり！静岡土曜版」

6月24日、朝9：30から放送の、静岡朝日テレビ「とびっきり！しずおか 土曜版」内のコーナーで、ＧＷ三島インストラクターの山口東司さんが源兵衛川でのミシマバイカモ保護活動について紹介された。いつもながら、山口さんの熱心な様子が映し出された。

源兵衛川でのゲンジボタル 令和５年度の観察報告を終了

6月25日をもって、本年度のゲンジボタルの観察と報告は終了した。今年度も過去最高の観察数を記録し（3,653匹）10年間の観察期間の中で最高の観察数となった。今後も源兵衛川の環境保全・維持管理に取り組んでいく。ＧＷ三島のインストラクター・山口東司さんの飛翔数調査は例年より早い4月26日に初観察。5月24日、1日当たりの飛翔数は過去最高の222匹。



三島生まれの新銘柄米「ゆめみしま」田植え体験

6月10日、今年も、農林水産省の正式な登録を受けた三島初の新しい銘柄米「ゆめみしま」の田植え体験会を開催。指導者は、米農家の白井幸太郎さん。

ＡＢＣラジオに出演「おはようパーソナリティ小縣裕介です」

6月26日、6：00から放送のＡＢＣラジオ「おはようパーソナリティ小縣裕介です」に、ＧＷ三島の渡辺豊博専務理事が生出演し、世界文化遺産に登録されて10年が経った富士山の光と影について語った。

環境再生活動へのご寄付・募金のお願い

グラウンドワーク三島の活動が始まり、30年が経過した。汚れた源兵衛川の水辺再生や、消滅したミシマバイカモの復活、ホタル飛び交う川づくり、松毛川千年の森づくりでの河畔林の保全、境川・清住緑地での自然度の高い川と湧水公園づくり、歴史的な井戸や水神さんの保護、学校ビオトープの建設、大場里山再生など、現在までに70箇所以上のプロジェクトを実現して、三島の元気なまちづくりの発展に大いに貢献してきた。

今後も、「右手にスコップ・左手に缶ビール」「議論よりアクション」を合言葉に、長期的視点に立った戦略的で地道な市民運動に挑戦していく。そのためには、安定的な「資金確保」が必要不可欠。皆様からの「ご寄付」や「募金」による、ご支援やご協力を是非お寄せください。

【募金の方法】

① お振込：三島信用金庫・本店営業部　普通口座1231930　※振込手数料はご負担ください。
（口座名義：トクヒ）グラウンドワークミシマ（特定非営利活動法人グラウンドワーク三島　理事　小松幸子）
② ご持参：グラウンドワーク三島事務局まで（平日9時～18時）

SDGｓ体験塾　（全８回）
「水の山・自然の宝庫・富士山」の四季を学ぶ
～多様な魅力を現場で体験～

三島市を含め、富士山麓周辺は、豊かな湧水と自然にあふれている。この「水の山・自然の宝庫・富士山」の多様な魅力を現場で体験する全８回の「SDGs 体験塾」を開校。青木ヶ原樹海や宝永山、富士山麓各地の湧水地など、実際に自然と触れ合って、その不思議や感動を味わう。

プ ロ グ ラ ム

1. 8 月 26 日　**バスツアー**　山梨コース　青木ヶ原樹海と洞窟探検
2. 9 月 2 日　**富士山学習**　「富士山の光と影①」
三島市文化会館大会議室　富士山の魅力の解説と抱える課題
3. 9 月 23 日　**バスツアー**　静岡コース　宝永火口と西臼塚周遊
4. 10 月 9 日　**バスツアー**　山梨コース　忍野八海と都留市湧水池の見学と調査
5. 11 月 3 日　**バスツアー**　静岡コース　裾野市、御殿場市、小山町の湧水池見学と調査
6. 1 月 18 日　**富士山学習**　「富士山の光と影②」
三島市文化会館大会議室 世界文化遺産登録から 10 年、意義と課題
7. 12 月 2 日　**バスツアー**　富士山構成遺産見学　富士宮市、富士山本宮浅間大社 富士吉田市、北口本宮富士浅間大社
8. 12 月 16 日　**富士山学習**　「富士山の光と影③」
富士山シンポジウム、富士山保全のあり方を考える

大場里山・メダカ池
環境再生ワンデイチャレンジ

平27(2015)年３月、三島市大場の静岡県立三島南高等学校に隣接する伊豆縦貫自動車道大場･函南ＩＣの東側に、「農業用自然水路･ビオトープ･メダカ池」を整備した。この環境再生作業を継続的に実施している。

７月 15 日、メダカ池周辺の草刈り、在来植物の手入れ、水路の泥上げ･掘削など里山を守る作業に汗を流した。

WEB メディア「ミズテル」が紹介

「命を育む水と関わる、全ての人の思いを届ける」をコンセプトにしたＷＥＢメディア「ミズテル」(株式会社スタークラフト運営）が、７月４日、ＧＷ三島の源兵衛川を中心とした活動や、発足からの経緯等を分かりやすく紹介した。

飛龍高校三島スクールの皆さんと「源兵衛川カワニナお引越し大作戦」実施

８月７日、飛龍高校三島スクールの生徒がボランティア活動体験の一環として、源兵衛川でのホタルの餌「カワニナ」のお引越し大作戦と水辺観察会に参加した。気温 33℃の中、水温 16℃の川に入り、約 2,000 匹のカワニナを採捕し、源兵衛川中流部のホタルがたくさん発生した場所に放流した。

都留文科大学から 40 名の大学生、源兵衛川でフィールド体験学習

９月 14 日、都留文科大学生が「環境保全と自然再生」のフィールド体験学習として、源兵衛川での草刈りに参加。川の水は冷たいが、外気温は 34℃近くの暑さの中、懸命に刈り取った草を集め、グリーンバッグに入れて三石神社まで移動、車で仮置場まで運搬と手際よく作業。コロナ禍後初めての野外授業で楽しそうだった。現場作業での事前の段取りの重要性や事故が無いように配慮すること、チームとして効率良く作業を進めることなど多様な「現場の知恵」を伝授。源兵衛川、劇的に綺麗になった。

「三島アメニティ大百科・別冊付録 No.12」「三島市民温水プール」

三島市民温水プールは、「すいすいみしま」の愛称で親しまれている屋内温水プールで、平成 11（1999）年、三島市民体育館の隣接地に開設された。鉄筋コンクリート造（一部鉄骨）、地下１階地上２階建の施設に、３つのプールとウォータースライダーが設けられている。（住所：静岡県三島市文教町 2-10-57　電話：055-980-5757）

長さ 36.7mの**ウォータースライダー**、１周 62.7mの流水プール、幼児プールは子供たちに人気が高い。25mプールは６コースあり、水泳とウォーキングのコースに分けられている。また、子供水泳教室、大人水泳教室、ウォーキングやアクアビクスなどの教室が開催され、泳法習得や体力増進に役立っている（事前申し込みが必要）。

（**25m プール**：水深 1.2m～1.3m・**流水プール**：水深 1.0m、中心長 62.7m、水流 0.72m/秒・**幼児プール**：水深 0.45m）

≪利用時間≫9：30～12：30　　13：30～16：30　　17：30～20：30

≪休館日≫第３月曜日（その日が祝日となる場合はその翌日）・年末年始、祝日は夜間の部(17：30～20：30)休館

≪駐車場≫275 台（温水プール・文教テニスコートと併用）　　**≪無料開放≫三島市民の日及び体育の日**

≪アクセス≫三島駅（北口）から徒歩 10 分、三島市自主運行バス「きたうえ号」光ヶ丘線・沢地線「三島市民体育館前」で下車

三島市内の写真集

撮 影 者：やまぼうし
撮影場所：三嶋大社境内
撮影日時：2023/8/17 14:30
ひとこと：三嶋大社例祭最終日の 8 月 17 日行われる流鏑馬。天下泰平・五穀豊穣を祈り行われる神事で 800 年の歴史を持ち現在は武田流一門により行われているとの事。真夏の暑さにも拘らず馬場沿いには大勢の人。何とか馬場を疾駆する射手を撮ることができた。

【投稿方法】撮影者の氏名、住所、電話、撮影場所、撮影年月日にひとこと添えて、Ｅメールに添付し、ＧＷ三島事務局まで。
Ｅメール：info@gwmishima.jp

ご寄付をありがとうございます。募金の趣旨を生かして大切に使わせていただきます。

＊東日本大震災支援募金
＊ネパール地震支援募金
＊熊本地震支援募金
＊大阪北部地震支援募金
＊松毛川の森を守る募金
＊西日本豪雨災害支援募金

第 37 回全国水環境保全市町村連絡協議会全国大会
「命をつなぐ、街をつなぐ、次世代につなぐ」～富士山の湧水のめぐみ～
「名水サミット in みしま・しみず」で発表

8 月 18 日、三島文化会館大ホールで「名水サミット in みしま・しみず」が開催された。名水紹介では、三島の源兵衛川を、三島ゆうすい会とＧＷ三島が担当し、清水町の柿田川を、柿田川みどりのトラストが担当した。

ＧＷ三島は、渡辺豊博専務理事の動画で源兵衛川への取り組みを紹介。手話や文字表記も。

その後、大学教授や准教授、絵本作家による基調講演、「湧水を活かしたまちづくり」をテーマのパネルディスカッション。特に地元出身で大活躍の宮西達也絵本作家（右写真）の「子供たちに感動体験を！」の発言は、参加者の思いも代弁しているようで賛同の拍手が多かった。

夜は、みしまプラザホテルで全国からの参加者と交流。昨年の開催地は千葉県君津市、来年は長崎県島原市で開催予定。偶然のことながら、ＧＷ三島小松幸子理事長と隣席となったのは昨年の実施地・君津市からの小松毅さん（君津市役所経済環境部環境保全課長）で、会話は多岐にわたった。

小松毅さんにＧＷ三島の活動紹介パンフレットと『バイリンガル環境かるた』を贈呈させていただいたところ、後日、君津市発行の『水と上総掘り』の冊子が送られてきた。

大会の主催経験者の小松さんが「三島には、農兵節のように皆で歌って踊れる文化があっていいですね」と語った一言が印象に残った。

腰切不動尊の例祭

9 月 28 日は平日（木）だったが、腰切不動尊の例祭を開催。9 月下旬でも 33℃に迫る暑さ。御堂内外の清掃や例祭の準備をしながら、昨今の物価高も話題に。田村和幸さんを先頭に読経、礼拝。

グラウンドワーク三島編集室

浅井 一哉　河田 惠美子
岸野 和子　城所 徂帝
小松 幸子　佐々木 覚
相馬 幸永子　前田 充子
山﨑 多紀子　山田 勝造
（五十音順）
ＧＷ三島事務局担当：美和 将弘

青山学院大学・加和太建設(株)
いい汗を流していただき感謝！

9 月 23 日、青山学院大学の国際ボランティアサークルの学生が、箱根西麓元山中の薬草畑の整備に参加。その後、市街地の実践地を視察し、合意形成の仕組みや現場主義の大切さ等を学んだ。翌 24 日に同学生は、源兵衛川の草刈り作業を体験。

川本来の魅力は生物多様性であり、景観的な視点だけでないことや、社会の基盤を支える現場での目立たない作業の大切さなどを体感した。

9 月 26 日は、加和太建設(株)の方々と、カワニナの捕獲・保護活動等を実施。これで、発注者と施工者が、川の環境に詳しいＧＷ三島との連携・協働により、的確な環境対策を施したうえでの自然を傷付けない慎重な工事施工ができることに繋がる。

源兵衛川で出逢った光景

6 月 28 日、台湾からの視察者と源兵衛川を訪れた時、湧水たっぷりのいずみ橋付近で、浮き輪を複数使って水遊びをしているスウェーデン人の母子に会った。スウェーデンからは時々、この近くに住む親戚を訪れているとか。歓迎、北欧のスウェーデンより源兵衛川へ。